

大学の体育会系部活動におけるOB会（同窓会）組織の役割

1210458 杉野 彰彦

高知工科大学 経済・マネジメント学群

1. 概要・目的

本大学硬式野球部は、一昨年（2019年）の春全日本大学野球選手権大会に出場した。当初、全国大会に初出場だった為、それまでどの程度コストが生じるかについて十分な検討がなされておらず、結果として見積もりの結果多額の金銭的負担を要するということがわかった。当時、部員のほとんどがアルバイトをしていたが、実費負担となるとかなり厳しいというのが現状であった。また、本学野球部には他大学と違い、まだ歴史が浅いため公式なOB会がなく寄付金も期待できなかつた。

これらの経験を踏まえ、OB会に代表される組織的な支援を形成することで、上記のような問題が解消され、部員のモチベーション向上にも繋がるのではないかと考えた。これが本研究の基本的な問題意識である。本研究では特に、OB会や同窓会などといった非営利の学校関連組織を形成する際の問題点を検討し、どのように組織化するべきかを検討することを目的とする。

2. 背景

一昨年(2019年)、本学野球部は全日本大学野球選手権大会に創部以来初めて出場した。その際、移動費や宿泊費など多額のお金が必要になり、金銭面でとても苦労した。現在の本学野球部はOB会などの組織がしっかりとしていないため、寄付金や支援金は期待できなかつた。実費で賄うにはあまりに高額だったため「奉加帳」と言うものを使い、選手自身が地元に戻るなどしてたくさんの人や企業に寄付金を求めた。この際、多くの方々のご支援を頂くことができたが、一方で練習時間の多くを犠牲にしたもの事実である。

そもそも本学の部員の多くは、奨学金制度を活用し、生活費の一部はアルバイトによって支えているのが現状である。そのため、部費なども私立大学と比べると低くなっている。本学野球部の部費が5,000円なのに対し、同じ四国の私立大学の四国学院大学野球部の部費は20,000円となっており(部員への聞き取りから)、かなりの差があることが分かる。さ

らに、全国大会出場時には大学、同窓会から100万円程度の寄付がある。例えば、全国大会常連校の立命館大学は、OB会から年末に100万円程度の寄付を貰っており、保護者会からは物品の寄付や費用を工面してもらっている(部員への聞き取りから)。このように、私立大学と比較しても本学との金銭的支援の差は明らかである。

また野球とサッカーとを比較してみると、大学野球では、日本学生野球憲章にて次のような規定がある。

第16条 学生野球に対する寄付または援助は、加盟校、野球部、部員、指導者、審判員または学生野球団体の部員を政治的あるいは商業的に利用する者であってはならない。

第21条 部員は野球部に現に在籍しているか否かを問わず、部員であることまたは学生野球を行うことに対する援助、対価または試合や大会の成績によって得られる褒章としての金品を受け取ってはならない。

上記のような規定があるため野球部ではスポンサーを付けることが出来ない。一方で、サッカーの場合は野球とは異なり連盟としてスポンサーを付けることに対して特別な規定を設けていない。そのため大学サッカーでは、スポンサーから得た資金を活動資金に充てることが出来るようになっている。このようにサッカー部と比べてみても野球部が資金を集めることは難しいということが分かる。

これらの現状を踏まえ、本研究では、OB会や同窓会などを組織化し、継続的支援を仰ぐことで、選手の金銭的不安を払拭し、プレーに集中させることができるのではないかと考えた。これが本研究の基本的な問題意識である。

ここで、OB会のような非営利の任意組織は、どのようにして形成していけば良いのだろうか。本研究では、大学や後輩に学校、後輩、部活に対して「想い」や「愛情」が強い人ほど、OB会や同窓会のどの組織に積極的に参加するのではないかと考えた。強い組織を形成していくにあたり、上記の

ような人材に中心的な役割を積極的に果たしてもらえよう
 な組織形成が必要になってくると考えた。

3.先行研究

大川、西出、山下（2011）は、国立大学における『卒業生サービス』の実施状況アンケート調査を2010(平成22年)3月に行っている。当該アンケートは全国の86国立大学全てに協力を依頼し48大学の回答を得ている。

『卒業生サービス』とは、卒業生（前身校や大学院修了者等も含む）を対象として大学単位で組織的に実施する様々な『便益提供』である（大川 西出 山下 2011）。」

もう少し簡単に言うと、卒業生との関係維持や母校への「愛情」や「想い」の高揚、人脈形成などを目的とし、大学経費を活用しながら様々な便益を提供していく活動と言える。

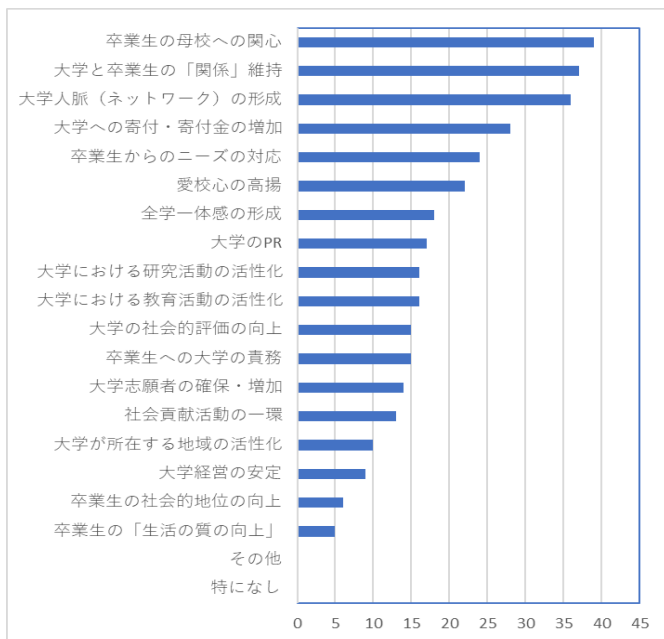


図 1-1 「卒業生サービス」の実施目的(大川,西出,山下 2011)

大川、西出、山下（2011）には、以下のような記述がある。

「卒業サービスは何のために実施しているのか、実施目的を尋ねた設問では、『母校への関心を高める』『大学と卒業生の関係維持』『大学への寄付・寄付金の増加』などの回答が多くある。卒業生個人の『社会的地位の向上』や『生活の質の向上』を回答した大学は多くない。現況における国立大学の

『卒業生サービス』実施の支視点は、卒業生の利益よりも大学利益への誘導に置かれていることが分かった（大川 西出 山下 2011）。」

また、以下のように指摘している。

「卒業生サービスを提供していくことで、卒業生は『webサイトの開設』、『就・転職やキャリアアップの支援』、『図書館優先利用』、などのサービスを受けられる。一方で大学側は、『母校への関心』、『卒業生との関係維持』、『大学への寄付・寄付金の増加』などを見込むことができる（大川 西出 山下 2011）。」

これを見ると、双方が win-win の関係になるとお互いに損はなく卒業生サービスの利用者も増えていくことが理解できる。

ここで、本学の野球部の「OB会（非公式）」を考えると、部はここから、寄付金等を受け取り（額や期日は任意）、活動費などに充てる事ができるため win である。しかし、寄付をする立場である OB 会員は特に部から何かを受け取るわけではない、すなわち上記のような「卒業生」と「大学」との関係性ではない。

ここで、このような会に参加する誘因を考えると、やはり大学や後輩に対する「想い」で成り立っているのではないだろうか。つまり、明確な部からの見返りがあるわけでもないにも関わらず、部に対して寄付等をするというのは「想い」がなければ成立しないのではないだろうか。

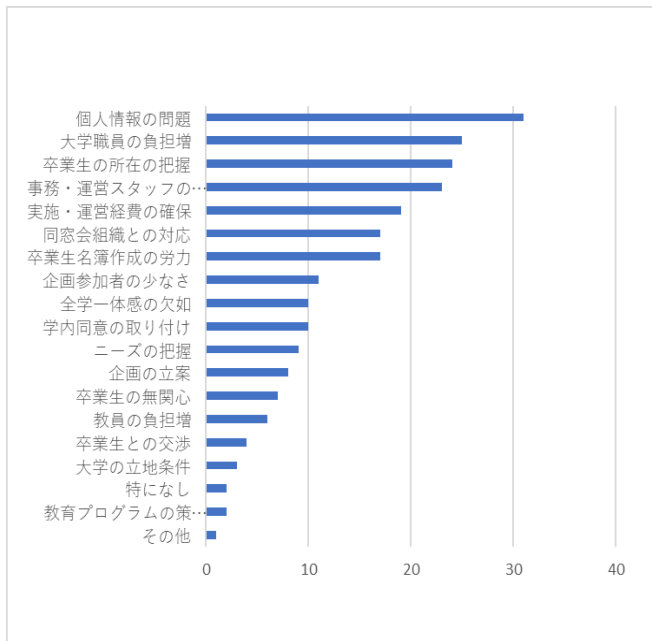


図 1-2 「卒業生サービス」実施上の課題(大川,西出,山下 2011)

前述の先行研究では、「卒業生サービス」実施上の問題点を明らかにするためのアンケートを行っている。図 1-2 はこれに対する結果である。これを見ると、「個人情報の問題」が一番多く、「他にも卒業生の所在の把握」「卒業生名簿作成の労力」などが挙げられている。

さらに大川, 西出, 山下 (2011) には以下のような記述もある。

『卒業生サービス』の実施には、卒業性情報の把握が重要である。しかし卒業生の所在や職業は流動的であり、その情報収集と管理に費やす労力と経費は大きい。そのことが『卒業生サービス』実施上の課題となっている (大川 西出 山下 2011)。」

「卒業生サービス」の課題で挙げられた「個人情報の問題」は OB 会や同窓会などの組織の課題でも同様に挙げられることが考えられる。先行研究では、この問題に対処する方法として「メールアドレスの付与」や「卒業生のための web サイト」としている。これについて、大川, 西出, 山下 (2011) には以下のような記述がある。

「メールアドレスの付与は卒業生がどこに所在しようと大学情報を伝えられ、コストの削減もできる。Web サイトは効果的な情報提供を期待するものだが、卒業性が自らの意思で個人情報を web サイトに入力提供する仕組みとして開発されたものもある (大川 西出 山下 2011)。」

このように OB 会や同窓会などの組織形成をする際もこのような対処する方法を取り組んでいけば対策の 1 つになるのではないかと考えられる。

4. 研究方法

非営利の任意組織をどのようにして形成していけば良いのか、という問いに答えるために、本研究では、「大学や後輩に「想い」や「愛情」が強い人ほど、OB 会や同窓会などの組織形成に積極的に関わる。」との仮説を設定した。

この仮説を検証するために、以下に示すアンケート調査を実施した。当該アンケート調査は、大学生 59 人を分析対象としている。大学や後輩に「想い」や「愛情」があるかを問う内容の質問項目を 9 個、また、OB 会や同窓会などの組織形成に困難さを抱いているかを問う内容の質問項目を 5 個、さらに、その他 3 個の合計 17 個の質問項目を設けた。以下は具体的なアンケート項目である。

1、あなたの大学生活は自分の人生で思い出深い期間となりましたか (なっていますか) ?

はい・いいえ

2、あなたは卒業後、OB 会や同窓会などの組織に入会しますか?

はい・いいえ

3、大学卒業後、大学や所属していた部活から寄付してほしいと連絡が来たら年間いくらまでなら寄付できますか?

4、あなたは、大学や部活の後輩に頑張してほしいと思いますか?

はい・いいえ

5、あなたが部活動のOB会に入るとした時に不安な点は何ですか？（複数可）

はい・いいえ

6、OB名簿を作るとした場合連絡先を提出しますか？

はい・いいえ

7、あなたは、部活動において自分たちが成し遂げなかった目標を後輩たちに達成してほしいと思いますか？

はい・いいえ

8、あなたは、OB会や同窓会などの組織は必要だと思いますか？

9、後輩が全国レベルの大会に出場する場合、OB会として（団体として）応援を要請されたら参加しますか？

はい・いいえ

10、あなたは、母校が有名になるのがうれしいと思いますか？

はい・いいえ

11、OB会を結成する際、何らかの役割（会長や広報など）を依頼されたら受けますか？

はい・いいえ

12、あなたは自分が卒業した後も、後輩たちの活躍を聞くのがうれしいと思いますか？

はい・いいえ

13、OB会の活動を継続する上での阻害要因は何ですか？

14、大学卒業後も、所属していた大学や部活に関心があると思いますか？

はい・いいえ

15、部活を引退した後や卒業後も後輩の試合の観戦に行くと思いますか？

はい・いいえ

16、部活の後輩に仲がいい人はいますか？

はい・いいえ

17、卒業後、卒部した部活に対する想いは何が原因で低下していきますか？（複数可）

上記の内容でアンケートを実施した。

5. 結果

図 2-1 は、大学や後輩に「想い」、「愛情」を持つと回答したものに「1」そうでないものを「0」、組織形成に困難さを抱かないと回答したものに「1」、そうでないものを「0」としてアンケートをまとめたものである。

	特別な事情や無い(出)										組織形成の困難は				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
3	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	
4	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	
5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
6	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	
7	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
9	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1	0	1	0	
10	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	
11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	
12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
14	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
18	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
19	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	
20	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	
21	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	
22	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	1	0	
23	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
24	1	1	1	0	1	1	1	0	0	1	1	1	1	1	
25	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
26	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	1	
27	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	
30	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
31	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	
32	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	
33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
34	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
35	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
36	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	
37	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	1	
38	1	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	1	1	1	
39	1	1	0	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	
40	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	1	1	1	
41	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
42	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
43	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
45	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
46	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
47	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	
48	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	
49	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	1	1	1	
50	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	
51	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	
52	1	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
53	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	1	1	
54	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	1	0	1	1	
55	1	1	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
56	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	
57	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	1	0	0	
58	1	1	1	0	1	1	1	0	0	0	0	1	1	1	
59	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	1	

図 2-1 アンケートまとめ

	1.卒業後OB会に入会するか	2.寄付をするか	3.OB名簿を作るとし たとき、連絡先を提 出するか	4.OB会や同窓会など の組織は必要か	5.OB会を結成する 際、役割(会長や広 報などを依頼され る受けるか
1.大学生活は思い出深いものになったか	1.360	1.427	0.405	3.565***	0.344
2.後輩に頑張ってもらいたいと思うか	-0.105	1.427*	0.405	1.872**	0.344
3.自分たちが成し遂げなかった目標を達成 してほしいと思うか	0.665	2.506**	1.229	0.896	0.196
4.後輩が全国レベルの大会に出場する際、 OB会として応援を要請されたら参加するか	0.836	1.492*	1.225	0.644	2.311**
5.母校が有名になるのは嬉しいか	17.592***	17.271***	18.564***	17.223***	0.322
6.後輩の活躍を聞くのが嬉しいか	0.615	2.140	1.112	2.584*	0.333
7.卒業後も所属していた大学や部活に関心 があるか	0.665	0.449	0.585	2.120**	0.385
8.卒業後も部活の後輩の試合観戦に行くか	0.993*	1.638*	0.896	1.016	2.942***
9.部活の後輩に仲のいい人はいるか	0.304	1.573*	0.834	0.223	0.293

図 2-2 質問項目間の単回帰分析の結果

図 2-2 では図 2-1 をもとにアンケートを単回帰分析したものである。

☆は 10%水準、☆☆は 5%水準、また☆☆☆は 1%水準で有意であることを意味する。

この結果を見ると、大学生生活は自分の人生の中で思い出深い期間となったと回答した人は、OB 会や同窓会などの組織が必要だと考えていることがわかる。また後輩に頑張ってもらいたいと思うと回答した人は、寄付に対する抵抗感が小さく、さらに OB 会や同窓会の組織は必要だと考えている。さらに、自分たちが為し遂げられなかった目標を後輩たちに達成してもらいたいと回答した人、および後輩たちが全国レベルの大会に出場する際、OB 会として応援を要請されたら参加すると回答した人は寄付に対する抵抗感が小さい。また、OB 会として応援を要請されたら参加すると回答した人は、OB 会を結成する際、役割(会長や広報など)を依頼された場合、引き受けることに積極的である。

これ以外の結果を見ても、大学や後輩に対する「想い」、「愛情」は、OB 会の組織化に積極的な姿勢であることが理解できる。特に母校が有名になるとうれしそうと思う人は、組織形成に困難さをほとんど感じていないと言うことが理解できる。

その他、記述式の回答の内容を見ると、「OB 会に入会するとき不安な点は何か」という質問の回答で一番多かったものは金銭的な負担に対する不安であった。他にも個人情報の流出など不安な点があるという人が半分ほどいた。卒業後、「卒部した部活に対する想いは何が原因で低下していくか」という質問に対しては、「知っている指導者や後輩などがいなくなる」という人が多くいた。

6. 今後の課題

本研究の結果により、OB 会などの組織を形成していく上でどのような人物を重視すべきかが明らかとなった。

まずは、組織の中心となる会長などの役職者について、卒業後も後輩の試合観戦に来ている人(大学や後輩に「愛情」や「想い」を持つ人物)に積極的に声をかけ入会を促すとともに役職を引き受けてもらえるよう交渉していくことが重要である。

また、OB 会入会時に不安な点があると回答した人は少なくなかった。今後そういった不安だと思われている点を解消していくことも必要となってくる。今後そのような不安点を解消していくことも課題となってくると考えられる。

さらに、「卒部した部活に対する想いは何が原因で低下していくか」での回答で多く出た、「知っている指導者や後輩がいなくなる」を取り上げる。これについては、実際私も高校時代所属していた部の指導者の転勤で部に対する想いは低下していることは間違いない。今後そういった指導者の交代などの問題の対策も必要となる。

7. 参考文献

[1] 大川一毅・西出順郎・山下泰弘(2011)「国立大学における『卒業生サービス』の現況と課題」

https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/files/public/3/33162/20141016192654215333/DaigakuRonshu_43_319.pdf

[2] 腰越滋・池田義人(2006)「大学における同窓会組織の今日的意義：『卒業生による大学評価アンケート調査』結果などを手掛かりとして」東京学芸大学紀要。総合教育科学系、第 57 集、pp19-27

http://ir.u-gakugei.ac.jp/bitstream/2309/1414/1/18804306_57_03.pdf

[3] 公益財団法人 全日本大学野球連盟 「日本学生野球憲章」

<https://www.jubf.net/material/doc/charter.pdf>